

# 令和2年度 東京都立小山台高等学校 学校経営計画

## (全日制課程)

校長 大田原 弘幸

### 1 目指す学校像

本校は、大正11年の創立以来、心身の健全な発達を図り、良識ある有為な人物を育成するため、「敬愛・自主・力行」を教育目標として掲げてきた。この目標を追求する中で、生徒の知・徳・体の健全な発達を促しつつ、次のような学校づくりを目指す。

#### (1) 高い志を持って自らの進路を追求する生徒を育てる学校

学ぶ者としての真摯な姿勢と謙虚な態度を身につけるとともに、高い志を持って自らの進路希望を実現すべく努力を怠らない生徒を育てる。

#### (2) 学習と行事や班活動(部活動)の両立に全力で取り組む生徒を育てる学校

学習とともに行事や班活動(部活動)への積極的な参加を奨励し、他者を尊重する態度や規範意識、何事にも前向きに取り組む姿勢を育てる。このことにより、心身の健全な発達を図り、真の文武両道を実現する。

#### (3) 広い視野を持ち、国際社会に活躍できる人物を育てる学校

積極的に国際交流を推進し、広い視野と豊かな人間性を育み、国際社会に活躍できる有為な人物を育てる。

### 2 中期的目標と方策

#### (1) 知的な好奇心を高める授業の追求

① 全ての教科で、常に知的な好奇心を高め、活力ある授業にするための工夫・改善を図り、生徒の幅広い教養と探究心を養う。そのために予習・復習を定着させ、切り替えと集中を徹底して、生徒の家庭学習時間を増加させていく。(学習指導)

② これまで以上に、あいさつ、正しい言葉遣い、時間厳守、身だしなみを整える、といった学ぶ者としての基本的な姿勢、態度が自然にとれるよう指導する。(生活指導)

③ 国公立大学への進学を前提とした上で、令和4年度実施の「新学習指導要領」における教育課程を編成するとともに、今年度実施の「大学入学共通テスト」に対応するための教科研修・授業研究を積極的に実施する。(組織体制)

④ 社会情勢の非常事態(学校の臨時休業等)における教育活動に対応するための教科研修・授業研究を積極的に実施する。(組織体制)

#### (2) 進学実績の向上

① 進学指導特別推進校として、進学実績の更なる向上を図る。国公立大学への進学希望が高まる中で、6割以上の生徒が国公立大学を受験し、難関国公立大の受験者が30名以上になるよう生徒の意識づくりをしていく。継続的に難関国公立大(東大、京大・東工大・一橋大・国立大医学部)に現役8名以上、国公立大に現役80名以上、難関私立大(早・慶・上智大)に現役60名以上の合格者を出せるようにする。(進路指導)

② 進路指導部を中心に、分掌・学年や教科との連携をこれまで以上に緊密化し、データに基づいた確かな指導ができる小山台としての進学指導システムをさらに工夫していく。(組織体制)

③ 公募制等を活用し、進学指導に実績と意欲のある教員を適宜配置していく。(学校経営)

#### (3) 班活動(部活動) 実績の向上と国際交流の推進

① 小山台高校の伝統を引き継ぎ、学力と共に特別活動の活力を維持し、両立を図っていく。そのために学習と特別活動のバランスのとれた生活サイクルを確立するよう指導していく。(学校経営・生活指導)

② 班活動(部活動)をとおして、他者を尊重する態度や規範意識、目標に向かって努力する態度を

育成し、さらなる実績の向上を目指す。(班活動)

③言語能力の向上を図るとともに、国際交流やキャリア教育を一層積極的に推進し、生徒の国際社会への関心を高めていく。(特別活動)

#### (4)心身の健康・安全対策の強化

①来年に延期されたが、「東京都オリンピック・パラリンピック教育」実施方針に基づき、国際理解を深めるとともに、スポーツに積極的に取り組み、体力と健康の増進を図る。また、スクールカウンセラーの継続的な配置等により、心身の調和のとれた発達を図る。特に、新型コロナウイルス感染症の予防対策に積極的に取り組む。(健康づくり)

②施設・設備の点検や安全管理体制のチェックを繰り返し行い、必要に応じて改善を図っていく。また、東日本大震災の経験をもとに防災対策の充実を図っていく。(学校運営・組織体制)

#### (5)広報活動の推進

①組織的・積極的な広報活動を行い、本校の特色ある取組や教育活動を広く都内の中学生やその保護者に伝え、「行事や班活動を活発に行いつつ、難関国公立大学をめざす生徒が集う小山台高校」という認識を広めていく。(募集・広報活動)

②機会をとらえて、小学生とその保護者への広報活動を増やしていく。(募集・広報活動)

### 3 今年度の取組み目標と方策

#### (1)教育活動の目標と方策

##### ①学習指導

- ・土曜授業を実施し、授業時間の確保を図る。
- ・課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習などアクティブラーニングの視点から授業改善を図り、知的好奇心を一層高める。
- ・予習・復習を習慣化させ、家庭学習の定着を図る。
- ・各教科で、新学習指導要領の趣旨を踏まえた学力スタンダード及び年間授業計画を策定し、組織的、体系的な学習指導及び教材開発を進めるとともに、進学指導の更なる充実を図るため、外部機関と連携を図る。
- ・新型コロナウイルス感染防止の観点から臨時休業した際の授業を確保するため、インターネット等を活用した教育活動の推進を図る。

##### ②進路指導

- ・進路指導部を中心として、3年間を見通したキャリア教育を計画的に実施し、生徒の進路意識を高めるとともに、広い視野で社会を見る眼を育てる。
- ・生徒の進路希望に応じた進学講習の充実を図るとともに、講習の実施方法を工夫し、生徒がこれまで以上に前向きに講習に取り組む意欲を引き出し、難関国公立大学にチャレンジする生徒を育てていく。
- ・全国規模の外部模試等の結果分析を的確に行い、データに基づく進学指導を進めるとともに、第一志望をあきらめない生徒の姿勢を育てる。
- ・班活動や学校行事との両立を図りながら、適切に学習を進められるよう計画的な時間管理と家庭学習の習慣を確立させる。

##### ③生活指導

- ・生活指導統一基準をもとに、あいさつをする、ルールを守る、身だしなみをきちんとするといった学校生活における基本的なマナーを適切に指導し、規範意識と自立心を育てる。
- ・授業開始のチャイムと共に授業を開始することなどを通じて、授業にきちんと取り組む姿勢をつくる。
- ・時間の切り替えと集中を徹底して指導し、家庭での学習時間を確保できる生活サイクルを確立させる。特に、定時制との施設共有の意味を理解させ、17時の下校時間を意識させる指導を徹底する。
- ・生徒の問題行動等への対応において、保護者、地域住民、関係機関と連携・協力できるサポート

体制（学校サポートチーム）を確立し、生徒の健全育成を図る。

- ・体罰の根絶やいじめの未然防止、早期発見、早期対応に向けて学年を超えた連絡体制を構築するとともにし、スクールカウンセラーを活用し、生徒一人一人の心の健康に対応できる相談体制を確立する。

#### ④特別活動・班活動（部活動）

- ・学習との両立を前提に、学校行事・班活動・委員会活動等に積極的に取り組ませることで、活力ある学校づくりを進める。特に、班活動においては、東京都教育委員会の部活動の在り方に関する方針に基づき積極的に休養日等を設ける。
- ・体罰や行き過ぎた不適切な指導はあってはならない。健康で安全な活動ができるよう、教職員はもとより、生徒・保護者に向けても体罰根絶への意識を高める。
- ・小山台高校の伝統を引き継いでいるという自覚を持ち、責任ある態度を育てる。
- ・東京都の次世代リーダー育成事業や公益財団法人小山台教育財団の国際交流事業を活用して国際交流を一層積極的に推進し、生徒の国際社会への関心を高めていく。

#### ⑤健康づくり

- ・体力の向上、健康的な生活習慣の維持等、心と身体の健康づくりに教科・教科外の活動を通して取り組み、生徒の健全育成を図る。特に、新型コロナウイルス感染症予防対策を推進する。
- ・スクールカウンセラーを活用し、特に心の健康に対応できる相談体制を確立するとともに関係法令に基づき生命尊重に資する教育を推進する。
- ・メンタルヘルス講習会、救急救命講習会等の実施や校内美化の推進を通して、生徒の健康と安全への関心と自覚を深める。

#### ⑥募集・広報活動

- ・中学生やその保護者、地域の方々に学校を訪れ、生徒の活動の様子を直接見ていただく機会をできるだけ多く設定し、学校としてより組織的・積極的な募集・広報活動を展開する。
- ・ホームページの充実を図り、本校の教育活動を積極的に掲載し、学校からの発信力を高める。
- ・中学校、塾への積極的な訪問により、小山台の良さを発信する機会を増やす。

#### ⑦学校経営・組織体制

- ・企画調整会議を中心として、各分掌内部及び各組織間の連携を強化し円滑な組織運営を図る。
- ・「進学指導特別推進校」「英語教育推進校」という東京都教育委員会の指定事業の有機的な結合を図る。それにより、それぞれの取組みが学校の特色を生かし、生徒に有益に機能するよう活用していく。
- ・予算の適切な執行（センター執行率向上）、学校徴収金の管理や個人情報の取り扱いを適切に行うとともに、経営参画ガイドラインをもとに、教員との連携・協力体制を構築し、経営企画室の経営参画と事務処理の円滑化を図る。
- ・職員室及び経営企画室等の整理整頓とクリーンデスクの徹底を図り、整理整頓された見通しの良い執務室を実現することにより、個人情報紛失事故を未然に防止するとともに教育環境の整備を図る。
- ・「学校における働き方改革推進プラン」に基づき、健全なライフワーク・バランスを推進する。特に、企画調整会議や職員会議等の校内会議は時間短縮（1時間以内）する工夫を行う。

## (2)重点目標と方策

### ① 学習指導・生活指導

- ・授業を大切にし、授業に前向きに取り組む姿勢を育て、生徒自らが主体的に学ぶ家庭学習時間の増加を図る。
- ・集中と切り替えを徹底し、学習と班活動や学校行事のバランスをとる時間管理をさせる。
- ・1，2年生への補習、補講、勉強合宿等を効果的に実施することで、基礎学力の維持・向上を図る。
- ・ICTを活用した教育活動の推進を図る。

【数値目標】

項目	目標	令和元実績	30 実績	29 実績
1, 2 年家庭学習時間 2 時間以上	70%以上	<b>75%</b>	64%	69%
1, 2 年家庭学習時間 3 時間以上	30%以上	<b>33%</b>	27%	33%
1, 2 年夏期・冬期講習講座数	15 講座以上	<b>21 講座</b>	27 講座	17 講座

② 進路指導

- ・生徒に高い目標をもたせ、(難関) 国公立大学、難関私立大学への進路希望を実現させる。
- ・全国模試等を活用して、同時期の定点観測や同一学年の学力の伸び方の測定を丁寧に行い、生徒の学力を把握して学習指導、進路指導に生かしていく。

【数値目標】

項目	目標	令和元実績	30 実績	29 実績
センター5(6)教科7科目受験者	160 名以上	<b>168 名</b>	162 名	199 名
難関国公立大学合格者	10 名(現役 8 名)	<b>10(2)名</b>	4(2)名	9(2)名
国公立大学合格者	100 名(現役 90 名)	<b>117(86)名</b>	103(77)名	100(75)名
難関私立大合格者	60 名(現役 40 名)	<b>81(60)名</b>	89(61)名	41(32)名
3 年夏期・冬期講習講座数	50 講座以上	<b>64 講座</b>	66 講座	78 講座

\*センター5(6)教科7科目受験者は平成30年度から新設(平成29年度までは5教科以上)

\*難関国公立大=東大・京大・東工大・一橋・国立大医学部

\*難関私立大=早大・慶大・上智大

\*3年夏期・冬期講習講座数は平成29年度から新設

③ 特別活動等

- ・学習との両立を前提に班活動や学校行事の充実を図り、生徒が誇りをもって活動する学校づくりに取り組む。
- ・活動時間、活動内容をさらに工夫することで、効率的な練習、準備を進め、常に家庭での学習時間を確保できるようにする。

【数値目標】

項目	目標	令和元実績	30 実績	29 実績
班活動加入率	100%以上	<b>100%</b>	100%	103%
都ベスト8以上	5 班以上	<b>5 班</b>	4 班	3 班
運動会、文化祭の来校者数	-----	<b>7,368 人</b>	7,615 人	6,994 人

\*運動会、文化祭の来校者数は新型コロナウイルス感染防止の観点から目標値設定せず

④ 募集・広報活動

- ・学校見学会、学校説明会、授業公開等の充実を図り、生徒の姿を見てもらう機会を増やしていく。
- ・中学生に対する班活動技術講習会を実施する班を増やしていく。
- ・ホームページの更新回数を増やし、広く本校の教育活動についての情報を提供する。

【数値目標】

項目	目標	令和元実績	30 実績	29 実績
学力検査での受検倍率	1.7 倍以上	<b>1.64 倍</b>	1.67 倍	1.57 倍
説明会等への参加者	-----	<b>5,144 人</b>	5,286 人	5,315 人
技術講習会実施班活数	7 班以上	<b>8 班</b>	9 班	906 名

\*説明会等への参加者は新型コロナウイルス感染防止の観点から目標値設定せず

\*班活技術講習会参加者は平成30年度から参加者数から実施班数に変更